

習がいつそう効果的に行われ
るようにする。

(一) 生徒個々の学力に応じて、目標達成の度合いが段階ごとには握できる
ようきめこまかな評価の方法を考
える。

(二) 発見的、創造的に学ぶ態度を育て、
自ら学ぶ学習のしかたを身につけ
せる。

(三) 教育機器を利用するなど、作業や
視覚を通じた学習を取り入れ、学習
の効果を高める。

(四) テストの内容や課題の与え方をく
うふして、指導の効果をいつそう高
めるようにする。

四、基礎学力の定着を図り「数 学的考え方」の育成に努める。

(一) 基礎知識の理解を深め、基礎とな
る計算力を充実して、これらが新し
い問題解決に生かされるようにする。

(二) 一つの教材を、代数的、幾何的、
解析的などいくつかの手法で取り扱
い、いろいろな見方のよさを認識さ
せるとともに内容の深化を図る。

(三) 次元を下げたり、観点をしばって
単純化したりして、より基本的な事
項に還元して問題を解決するしかた
を理解させる。

(四) 次元にかかわりなく成立する性質
を理解させたり、いくつかの領域の
事項を高い視点から統合的に認識さ

せることによつて数学の方法のよ
さを知らせる。

(五) 論理的に考える態度を養うととも
に、論理的な表現ができるようにす
る。

また、演繹だけでなく帰納・類推
の方法も理解させて、特殊から一般
へ、一般から特殊への数学的な手法
を身につけさせる。

(六) 数学史や学問における背景に触れ
教材に対する関心を深める。

五、指導の内容・方法について 中高の連関を図る。

(一) 中学校における学習事項をじゅう
ぶん検討し、入学生の実態を正確に
は握する。

不足を感じる面についての補充に
当たっては、集中的にまとめて行
うか、高校における学習におりませ
て必要に応じて行うか、生徒の実態に
適合する方法を考える。

(二) 定義や用語・記号については中学
校での学習がじゅうぶん生かせるよ
う配慮する。

(三) 中学校学習指導要領において、指
導についてただがきのある事項は
その学習が必ずしも一樣ではないの
で配慮が必要である。

(四) 学習指導要領の改訂にともない、中
学校では五十三年度より移行措置が
とられると思われるのでそれに対応
しうるよう事前の研究が必要である。

理科



小学校

自然との接触を広げ、具体的な学習
活動を通して自然認識を深め、基礎的
な知識・技能の習得や、自然を調べる
態度・習慣の育成を図るため、次の点
について努力する。

一、児童自ら自然の事物・現象
を観察し処理することにより
基礎的な知識、実験・観察の
技能が習得されるよう、指導
事項を検討し、実態に即して
指導計画を改善する。

(一) 地域環境、学校の施設・設備、児童
の経験や能力をじゅうぶん考慮し、単
元の配列、指導時数、取りあげる素材・
実験・観察等について検討する。
(二) 指導事項の重点化をいつそうすす
め、指導計画に明示する。

(指導事項の重点化については、
教育福島昭和五十年及び五十一
年六月号参照)

(三) 単元・教材内容等を検討し、探究
的に取り扱う単元・教材内容等指
導計画に位置づける。

二、児童の自ら考える力、創造
的な能力を育成するため、探
究的な学習が効果的に行われ
るようにする。

(一) 実験・観察等の直接経験を多く与
えるようにする。

(二) 教えること、児童に探究させるこ
とをじゅうぶん吟味し、探究させる
に当たっては、児童の主體的な活動
を助長するよう、指導に当たる。

(三) 児童が自ら問題をとらえ、未知の問
題にいとむ場の設定をくふうする。

(四) 児童の発達段階に応じ、科学の方法
を計画的に取りあげて指導し、初歩的
な科学の方法が身につくようにする。

(五) 実験・観察は、論理的思考の発展
と技能の習慣が図られるよう計画し、
対象をじゅうぶんに観察し、既知の
ものと比較してまとめたり、因果
関係を確かめたり、また、結果を定
量化したりすることが、しだいに深
められるようにする。

(六) 一般的な探究の過程に従っていつ
も指導が行われていることから脱し
指導事項、児童の経験・能力等を
慮して、多様な探究の過程をとるよ
う指導過程をくふうする。